

■効果の見える治水事業

『日下川(戸梶川)流域治水対策河川事業』



高知県中央西土木事務所 所長 松田 優

日下川は、一級河川仁淀川水系の1次支川であり、高岡郡佐川町から日高村の中心部を(2次支川戸梶川を合わせて)東流して、仁淀川右岸14km地点で合流する延長約10km、流域面積38km²の河川です。

日下川は平均勾配が1/1、500と緩やかで、川沿いの平坦地は仁淀川から逆流した泥水が残っていた泥土と流域から流出した風化土壌などが堆積してつくられています。そして、流域の中ほどあたりは湿地として残され、全体として地盤が低い上に川下の方が高く、いわゆる“鍋底形”の地形になっています。

このため、洪水の時には仁淀川の水位の方が高くなって、日下川の水は流れ出ることができなくなり、平坦地にたまる内水被害が発生します。日下川流域は、昔からの“内水”と仁淀川からの逆流に悩まされ、洪水のたびに大きな被害を受けてきました。なかでも、昭和50年の台風5号では日高村の平野部のほぼ全域が水没し、死者25名、重傷26名、家屋の全壊71棟、半壊70棟、一部破損1,025棟、床上浸水638棟の甚大な被害を受けました。

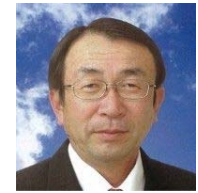
日下川の本格的な治水事業は昭和21年の南海地震による地盤沈下対策として派川日下川放水路(昭和36年度完成)が建設されたのがはじまりですが、その後も洪水被害が相次いだため昭和50年度から中小河川改修事業に着手しました。また、同年の台風5号災害への対策として直轄激特事業による日下川放水路(昭和57年度完成)の建設、広域河川改修事業による日下川調整池(平成10年度完成)の建設が進められてきました。平成15年度に着手し、現在建設を進めている戸梶川調整池(面積:12.2ha、湛水容量30.6万m³)は、これらの治水事業の総仕上げというべきものであり、今年度中の完成を目指しています。完成後は、浸水被害の軽減はもとより地域の発展に寄与するものと期待しています。



整備の進む戸梶川調整池



人と自然を大切に共生の里



日高村長 戸梶 真幸

日高村は、高知県のほぼ中央部で、高知市より西に約16kmのところと位置し、北部から東部にかけては石鎚山に源を発する清流仁淀川が流れ、隣接するの町と境をなしています。

また、地域の歴史は古く、土佐二宮小村神社史に用明天皇2年(西暦紀元586年)建立とあることから上古より開けた旧村であることが覗えます。

そして、「日高村の歴史は水害の歴史」とも言われるように、過去、昭和50年には台風5号による集中豪雨、翌51年には台風17号による未曾有の大災害を被ったことは、誰もが忘れてはならない記憶であります。村中央部を西から東に貫流する日下川には、「日下川放水路」を始めとし、治水事業に携わられた先人たちの「水害との闘い」の後が刻み込まれています。

一方、日高村はその「治水事業」により育まれた豊かな自然環境に溢れ、ホタルの乱舞する小河川、非常に珍しいトンボのミナミヤンマの生息するトンボ公園、絶滅危惧種のメダカの生息する調整池の他、山野においては蛇紋岩地帯特有のドウダンツツジを始めとする貴重な植生、世界的な植物学者の牧野富太郎先生のもっとも愛したバイカオウレンの生息地などすばらしい環境があり、人と自然の共生が保たれており、これらは、後世を担う子どもたちに引き継いで行かなければならない大切な財産であります。

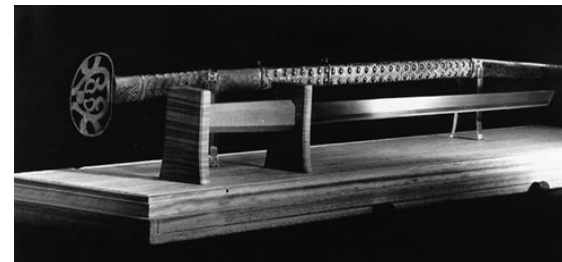
最後に、今後においても先人より受け継いだ火を絶やすことなく、更なる「治水事業」の推進に努め、豊かな自然環境との共生を図るとともに、「子育てするなら日高村」、「老後を過ごすなら日高村」と言ってもらえるような日高村にしていきたいと思います。日高村に生まれ育ち、生活を営んでほんとうに良かったと思える村づくりを地域の皆さまと共に推進していきたいと思います。



ドウダンツツジの花



ドウダンツツジの紅葉



金銅瑠環頭太刀拵太刀身(こんどうそうかんとうのたちこしらえたちみ)



土佐二の宮 小村神社